



連載

みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

国際交流事例紹介



NPO法人ふれ・スポ・とうべつ ＜北海道石狩郡当別町＞



オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、「NPO法人ふれ・スポ・とうべつ」が実施している国際交流の事例を紹介します。

当別町・レクサンド市姉妹都市提携30周年記念事業 ～スポーツ交流～

実施日時	平成29年10月26日(木)～30日(月) ※スポーツ交流は29日(日) 13:00～15:00
実施会場	当別町総合体育館・あいあい公園
参加者数	150名(内訪問団60名)
主催	姉妹都市提携30周年記念事業実行委員会



1 企画経緯

スウェーデン・レクサンド市との姉妹都市提携30周年記念事業を開催するにあたり、上記実行委員会内にいくつかの部会が設けられ、文化・スポーツ青少年交流部会の部会長を、町体育協会事務局長兼当クラブ事務局長が務めることになりました。

2

実施内容

スウェーデン訪問団16名も参加し、武道・スポーツ吹矢を町民と一緒に体験

スポーツ交流では、あいあい公園を会場にパークゴルフ大会を開催し、訪問団16名と当別町民29名の計45名が参加し、コミュニケーションを取りながらプレーを楽しみ、訪問団からはホールインワンも出るなど大変盛り上がりました。

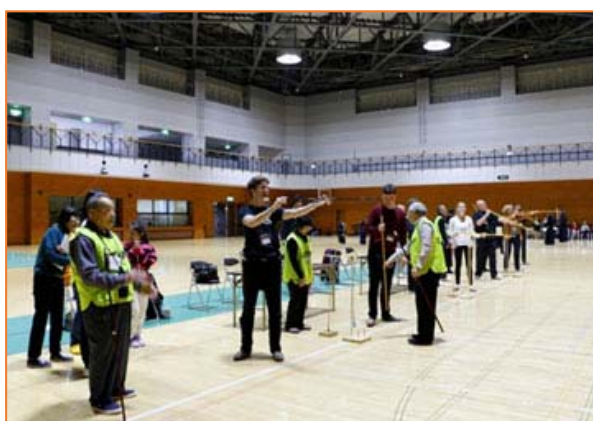
総合体育館では、日本の武道である弓道、剣道、柔道の見学、スポーツ吹矢の体験をしました。剣道では実際に竹刀を持ち、防具をつけた剣道連盟指導者に対して打ち込みをしたり、弓道でのゴムバンドを使った弓引きの模擬体験のほか、スポーツ吹矢では実際に的に向かって矢を放つ体験をして、矢が的に当たるたびに歓声が上がっていました。



レクサンド30周年記念事業
剣道体験で竹刀を持って打ち込み。気迫の一刀！



レクサンド30周年記念事業
弓道でゴムバンドで弓引き体験。静寂の中で真剣に取り組んでいます。



レクサンド30周年記念事業
日本発祥のニュースポーツ「スポーツ吹矢」で、忍者気分。日本の礼儀と作法を重んじる競技を体験。

2018年ワールドユースジャパン 国際・多文化交流プログラム内 ふれあいスポーツ国際交流

実施日時	平成30年7月16日(月) 13:00~15:00
実施会場	白樺コミュニティセンター
参加者数	米国人高校生3名、リーダー1名 ホームステイ受け入れ家族10名 キッズインターナショナル生(当別町内小学生)10名 講師3名
プログラム	
主催団体	米国NPO法人スチューデント・ディプロマシー・コア
国内受入団体	NPO法人ワールドユースジャパンとうべつ実行委員会
後援	当別町教育委員会

1 企画経緯

米国のNPO法人が将来有望な高校生を対象として実施している国際・多文化交流事業の受け入れ先の一つとして、当別町は4回目の受け入れとなります。体験交流事業の一つとして当クラブにスポーツ交流事業の開催を依頼され、実施することになりました。

2 実施内容

米国の高校生や町内小学生らがボッチャなど3競技を体験

当クラブ所属サークルの協力を得て、スポーツ吹矢、ボッチャ、フライングディスクの体験を行いました。3グループで30分ずつローテーションすることで、全員が全ての種目を体験することができました。また、ホストファミリーとの交流はもちろん、町内のキッズインターナショナルで英会話に親しむ小学生の参加もあり、にぎやかで楽しい時間を過ごすことができました。



ワールドユースジャパン
フライングディスクを輪に投入する「アキュラシー」競技。
輪の中に入れるのは、中々の至難技です。



ワールドユースジャパン
パラリンピック競技のボッチャを体験。
ルールがわかるとゲームにも熱が入って、球の行方に
一喜一憂でした！



ワールドユースジャパン
スポーツ吹矢を体験。
筒を吹いて矢が的に当たる瞬間は気分も爽快！

3 参加者・運営側の声

参加者の声(実施後)

姉妹都市交流で武道を体験した参加者からは、これまで関心はあっても実際に競技に触れたのが初めてだったため、「大変感激した」との感想を頂きました。また、スポーツ吹矢は「忍者」を連想するらしく、思いがけないところで日本らしさを感じてもらえた様子でした。

スポーツは、多少言葉が通じなくても身振り手振りでルールなどを伝えることができます。また、できた喜びなども共有できることから、どの事業の参加者からも「楽しかった！」という声を多く聞くことができました。

運営者の声(実施後)

最初に国際交流のお話を頂いたときは、正直言葉の壁などから抵抗を感じていましたが、何度か受け入れをさせて頂くうちに、参加の方々が喜んでくれる姿がとても励みになりました。

交流事業の中には、文化交流や伝統芸能に関するものもありますが、一緒に汗を流し楽しむことができるスポーツ交流が一番喜ばれていたのではないかと感じます。

競技のノウハウが国際交流に生きる

当クラブは障がい者スポーツの指導者養成や活動支援にも力を入れて取り組んでおり、ボッチャやフライングディスクなど、誰でも簡単に取り組むことのできる競技のノウハウがあったことが、国際交流事業のスムーズな受け入れにつながったと感じています。

今後も、自分たちの取り組みに自信を持ち、国際交流に限らず様々な要望に対し、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

地方で東京2020大会を盛り上げるために

(長谷川敏NPO法人ふれ・スポ・とうべつ事務局長より)

東京オリパラの実態を知ってもらうことが一番だと思います。東京都内に限らず、地方の学校でもオリパラに関する授業を行うなどの取り組みが必要です。クラブからどんなにオリパラを発信しても周知には限界があります。学校・職場に関係者が入り込んで、具体的にアピールするような環境で実態を知ってもらえるような仕掛けがあればと感じています。

当別町総合体育館はウィルチェアーラグビーの練習会場となっており、実践さながらの迫力ある練習が行われています。ハイレベルの選手が身近で練習していることをもっとPRすることもある必要のあることと思います。

(北海道体育協会クラブアドバイザー 熊耳 雅美)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成22年3月22日（法人格取得）平成26年6月13日

所在地 北海道石狩郡当別町白樺町2792番地

特徴 平成28年度より総合体育館ほか2施設の指定管理を受け、「いつでも、どこでも、だれでも」をモットーに各種スポーツ事業を展開する中、「ふれスポ」の愛称が町民にも浸透してきました。
体力や身体能力の向上を目的に、スポーツ好きな子供の育成とバドミントンや水泳など技術向上を目指すメニューのほか、マナーキッズプログラムを教育委員会と連携のもと、小学校に導入し礼儀と体幹運動の大切さを子供たちに伝えています。
フィットネスや健康づくりメニューの提供やトレーニングマシンの充実で、これまで総合体育館とは無縁だった町民も参加する機会が増えています。
障がい者スポーツに関しては、ボッチャやフライングディスクで全国大会に選手を輩出するほか、健常者や子供、高齢者等のスポーツ交流においても一緒に楽しむ機会を提供しています。

連絡先 〒061-0233 北海道石狩郡当別町白樺町2792番地 当別町総合体育館内
TEL 0133-22-3833 FAX 0133-22-3832
E-Mail info@tobetsu-gym.jp